

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2011.10.15 No.118 連絡先 FAX 042-555-1911



横田基地でCBRN（化学生物放射線核）訓練か

右の2枚の写真とともに、情報提供がありました。

【写真にある JCADは Joint Chemical Agent Detectorの略です。しかし、箱に張ってある写真は JCAD-SIM つまり simulator 模擬のもので training simulator systems 訓練用の模擬装置のようです。実践には new M4-JCAD（空軍用新型の検出器）を使うが、それを使いこなせるようにするための訓練にこれを使っているようです。手作りの箱のような写真は9月15日午前8時59分に撮影したもので、もう一枚は ARGON ELECTRONICS 社のHPからダウンロードしたものです。震災（3.11）直後にアメリカ本土からCBRN特殊部隊が横田基地に来ましたが、特殊部隊が来なくても対応できるように、日常的訓練をしている（はじめた？）ものと思われます。】



空自小松基地のF15戦闘機 燃料タンク落下 「ドーン！」と爆発音

10月7日午前8時45分ごろ、航空自衛隊小松基地（石川県小松市）の北北東約4キロの上空で、同基地所属のF15戦闘機の左主翼に設置されていた燃料タンク（直径0.8メートル、長さ6.6メートル、重さ155.6キロ）1本と空対空模擬ミサイルの一部が落下しました。破損したタンクや部品（200個以上）などは能美市山口町や同市根上町で見つかりました。タンクは空でしたが落下直前に同基地の管制官が機体から火が出たのを確認しています。大惨事寸前でした。

嘉手納基地での 横田基地所属C130の燃料流出 米軍が認める

横田基地のC130輸送機が8月21日、嘉手納基地に着陸の際、燃料とみられる液体を噴出した問題で、米軍は当初、否定していました。26日、琉球新報社の取材に対して嘉手納基地報道部は燃料の流出を認めました。その上で「横田基地によるとC130の正常で安全な飛行機能の作動による、極微量の燃料の自動放出である」と回答。燃料が自動流出する仕組みについては「必要に応じて給油連結管に残っている燃料を放出するもので、通常この機能が働くのは、重力によって機体内の燃料が移動し、翼が傾き、それによりバルブが開いて（自動的に燃料が）放出する仕組みになっている」「今回の燃料漏れは操縦士の意図的な操作ではない」「航空機が地上にいる間は自動流出の機能は停止している」と説明。



嘉手納基地は地上ではない？

嘉手納基地では町民無視の航空機事故が多発

町民無視の航空機事故多発、機能強化は常軌を逸している、嘉手納町議会は厳しく抗議。決議と意見書（次頁）を上げました。（写真：攻撃機A10サンダーボルト）

無理だヨ！オスプレイ 全員集合 高江パレード 10月1日那覇国際通り

若い世代や子どもたち風船や太鼓にぎやかにパレードで



か
で
す

嘉手納町議会 嘉手納基地における航空機の事故多発、機能強化 (No. 118 の裏面)
町民無視の米軍や米政府の態度 日本政府の怠慢に 厳しく抗議

嘉手納基地における町民無視のたび重なる事故多発、機能強化等に対する意見書

ここ最近の米空軍嘉手納基地における航空機の事故多発、機能強化の実態は常軌を逸した異常事態と言わざるをえず、町民無視の米軍や米政府の傲慢な態度とこの事態を放置している日本政府の怠慢に厳しく抗議するものである。

米空軍嘉手納基地での演習、訓練は激化の一途をたどり、米軍機による騒音は激増し、2010年度の騒音は字嘉手納での深夜、早朝の騒音防止協定の規制時間帯（午後10時から午前6時）の騒音発生回数は月平均484.7回となり過去最高となっている。最近もひどく米軍の航空機の運用野放しによって町民の生命、安全、静かな夜さえ破壊されている。到底許すことはできない。

一方でこの8月、9月の期間中、燃料漏れ、外来機F A 1 8 戦闘攻撃機の爆弾かかえの緊急着陸、F 1 5 戦闘機の燃料投棄緊急着陸、F A 1 8 の部品落下事故、在韓米軍のA 1 0 サンダーボルトの緊急着陸など米軍機の整備点検、安全管理が厳しく問われる事故が発生している。また、9月中旬以降には、嘉手納基地内への猛毒の枯葉剤の地中投棄の証言（9月12日）、基地機能強化につながるゴルフボール状通信アンテナ施設の建設（9月13日）、嘉手納弾薬庫地区内での「不用弾処分」による大爆発音の発生（9月19日）、米空軍横田基地所属C 1 3 0 輸送機の燃料投棄（9月21日）、F A 1 8 の焼夷弾「M K 7 7」投下訓練（9月23日）、などが判明し、嘉手納基地の危険性、機能強化の実態が浮き彫りになり、町民への不安、恐怖心をかきたてている。さらに、このような嘉手納基地の実態が明確になっているなかで、普天間基地の嘉手納統合案が米国議会で検討されていることに強い憤りと怒りを感じざるをえない。米国議会での国防権限法案を持ち出して嘉手納基地統合を進めようとの米上院有力軍事委員や米国防長官らの言明に対し、その撤回を強く求め、町民の意思は嘉手納統合案の断固粉碎、普天間基地の即時閉鎖、県外、国外への移設であることをあらためて明確にするものである。

これらの事故多発と機能強化の進行は、米軍が嘉手納基地の勝手放題の自由使用を行い、日本政府が米軍、米政府の対応を批判せず、黙認しているからに他ならない。あらためて日米両政府、米軍に対し、軍事よりも町民、県民の生命、安全、財産を守り、事態の改善をはかるよう強く求めるものである。

よって、嘉手納町議会は、町民の生命、安全、財産、平穏な生活環境を守る立場から、下記事項の速やかな実現をはかるよう強く要求する。

記

- 1 F 1 5、F A 1 8 戦闘機等の整備点検、安全管理を徹底し、再発防止策を公表すること。
- 2 外来機の飛来、訓練を中止し、町民の爆音被害除去、騒音防止協定を厳格に守ること。
- 3 不用弾等の爆破処理、航空機関連事故等の事故発生時の通報体制の迅速化を徹底し、日米合意事項を厳格に守ること。
- 4 航空機等の事故、トラブル発生の原因を徹底究明し、その結果を速やかに公表すること。
- 5 猛毒枯葉剤の嘉手納基地内での地中投棄、新設ドーム型通信施設の真相と実態を解明し、公表すること。
- 6 嘉手納統合案を断念し、普天間基地の即時閉鎖、県外、国外移設を図ること。
- 7 嘉手納基地の機能強化をやめ、具体的な負担軽減をすすめること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成23年9月29日
沖縄県嘉手納町議会